

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號一第卷一十五第

月七年五十和昭

論叢

民族主義と帝國主義……………

文學博士 高田保馬

實踐學としての日本經濟學……………

經濟學博士 谷口吉彦

時論

日本國と蘭領東印度……………

法學博士 末廣重雄

研究

江戸時代の國產獎勵……………

經濟學士 堀江保藏

理想型理論の方法的意識……………

經濟學士 出口勇藏

自由貿易主義の吟味……………

經濟學士 岡倉伯士

說苑

北支滿洲損害保險市場……………

經濟學士 佐波宣平

ハンセンの人口政策に就いて……………

經濟學士 青盛和雄

附錄

彙報

外國雜誌論題

自由貿易主義の吟味（上）

—— マノイレスコの理論に據りつゝ ——

岡 倉 伯 士

一 序 言

自由貿易主義と保護貿易主義との論争はまことに古い歴史を持つ。けれども吾々はそれを陳腐な話題であると考へてはならない。いな寧ろ今日の新しい國際交通秩序の建設の問題もこの古い話題を再検討しこれに新らしい理論的分析を加ふることによつて解明せられるであらう。永い論争の過程に於て自由貿易主義の陣營も保護貿易主義の陣營もそれ／＼理論的精密化と展開とを経験したとは言へ、大體に於て論争は保護主義陣營の敗北に歸してゐる。諸國に於ける資本主義經濟の發展が未成熟であり、經濟領域引いては市場の廣さに比して個別企業の能量が極めて小であり、従つて國民經濟がほど原子的競争の場所であつた段階に於ては、古典派理論の明示的乃至は默示的前提が經濟の現實に於てほど與へられてゐたと考へられる。かゝる段階に於て保護主義が理論的に敗北するのは寧ろ當然であり、ワグナーやオルデンベルグ等の論者がその理論的無能を曝露して終ひに經濟外的議論に逃避せざるを得なかつたことも容易に肯かれる。實際また保護主義の理論的始祖と考へられるリストすらも究局に於ては自由貿易の辯護者であつた。けれども資本主義經濟が成熟し巨大な個別企業の市場勢力が加はるにつれて、原子的競争の状態は漸次準獨占乃至は獨占の状態へ移行する。市場の秩序は古典派理論によつて説かれ

た自然的秩序から特定企業者の個別意志によつて支配される秩序に發展する。競争價格に代つて獨占價格が自然價格に代つて言はゞ意志價格が支配する。吾々の第一の關心は資本主義經濟のかゝる基盤の變化のうちに保護主義を理論的に妥當せしむべき條件がないかどうかを確かめることである。また吾々の第二の最も切實な關心は、個別意志によつて支配される經濟秩序の下に於て國民經濟の共同的全體的利益が如何に影響せられるかを確めることによつて、今日の國民經濟的及び國際經濟的變革の實相を理論的に把握することである。個人主義から共同主義への變革は、それが個別意志によつて支配される秩序から共同意志によつて支配される秩序への移行である意味に於て重大な倫理問題を含む。けれどもかゝる意志秩序の變革は資本主義經濟の論理的發展によつて相互的に規制されるものである限り、新しい經濟秩序の問題は、倫理主義的精神主義的な一方的議論のみによつては解決され得ないであらう。

吾々のかゝる二つの關心は密接な關聯を持ち、第二の問題の解決は第一の問題の解決を要請する。それ故に吾々の課題は先づ貿易理論の分野に於てこれまで唯一の理論體系であつた古典派及びその流れを汲む諸學派の理論を克服し、それが妥當する經濟的條件を明確に限定することによつて、同時に保護主義に對し新たな理論的妥當の地盤を與へることである。比較生産費説を克服しその妥當の限界を明らかにすることなしに今日の貿易の現實を説明しようとすることは緣木求魚の業であり、理論の飛躍なしにはなし得ないことであらう。この小論の目的は、これまでに見られた保護貿易理論のうちで最も理論的な勞作であるマノイレスコの理論¹⁾によりつゝ、しかも彼の理論の妥當しうる經濟的條件を再吟味することによつて吾々の上述の課題を解くための手掛りを得ることにある。

1) Mihail Manoilescu: Die nationalen Produktivkräfte und der Aussenhandel derselbe: Arbeitsproduktivität und Aussenhandel W. A. Bd. 42 Heft 1. 1935 S. 13 ff. マノイレスコ理論の忠實な紹介は手塚壽郎氏: 國際貿易政策思想史研究 1-57頁。

二 マノイレスコ理論の性格と『國民利益』

周知の通り古典派及びその亞派の理論的基礎は、『彼(個人)が目指してゐるのは、彼自身の利益であつて社會の利益ではない。しかし彼自身の利益の探究は自然に或ひは寧ろ必然に彼を導いて社會に最も有利な使命を選ばしめる』²⁾と言ふ個人的利益と共同利益との自然調和觀乃至個人主義的オートマティズムにある。マノイレスコは先づ『見えざる手』の働きによつて齎らされると言ふ自然調和の考に反對し『反原子論的國民優位』

(antiatomistisch und national par excellence) の思想に立脚する。若し古典派の言ふが如く個人の利益と社會の利益とが自然的に調和し兩者が平行關係にあるものとすれば、個人の利益は社會の利益の眞の規準となり、企業利潤の大なる生産部門は同時に大なる國民所得を實現する筈である。けれどもマノイレスコは『國民利益の増大と個人的企業家所得の増大との間には何等の關係もない』³⁾と主張する。勿論一切の個人的利益の存在しないところに國民利益の存在しよう筈はない。また今日の資本主義組織の下では企業家利潤が企業そのものの存立及び維持とつての不可欠な條件であることは否定出来ない。けれども企業家利潤は國民所得の單なる一項目にすぎず、しかも前者は後者に對して必ずしも比例的でない一項目である。何故にそうであるか。この點に關するマノイレスコの説明は明確を缺くが彼の説明を要約すれば次の如くなるであらう。特定國に於けるある商品の生産が他の商品の生産よりも大なる純生産乃至國民所得を齎らしうるにかゝはらず、その國が當該商品の生産に必要な何等かの條件を缺くことがありうる。例へばその商品の生産に必要な勞働力が不足し、従つてその必要な勞働の勞銀が著しく高いことがありうる。その結果としてこの國に於ける當該商品の供給價格が外國の價格よりも高く、従つて

2) A. Smith: Wealth of nations 改造版 上卷 495頁。

3) Manolesco: a. a. O. S. 61.

4) derselbe: a. a. O. S. 63.

5) derselbe: a. a. O. S. 60.

外國との自由な交通の下では何等の企業家利潤も存在し得ず引いては企業そのものが存立し得ないことがありうる。けれどもこの場合何等の企業家利潤も存在しないことは、同時に何等の國民利益も存在しないことを意味するものではない。それ故に『兩者の利益範疇の間には、古典派をして企業者の個人的利益の存在しないところでは國民利益もまた存在し得ないと主張するに至らしめた様な一致は存在しない。』⁶⁾

念のためにこの點に關するマノイレスコ自身の見解が最も明瞭に表明されてゐると思はれる一句を引用して置こう。『例へば一〇〇の生産力を以て運営されるある工場に於ては、國民利益は一般に一〇〇の生産力を以て運営されるある農業企業に於けるよりも大である。何故なら工場に於ては労働者はより高い労働を受取り債権者は多額の利子を支拂はれたる國家は高い租税を受納する。それ故に外國との自由競争の下で成立する工業生産物の價格を以てしては、當該企業者の所得として何等の餘剩も殘されない場合ですら、國民利益は極めて大であるから。これに反して農業に於ては事態はその反對である。こゝでは生産物が世界價格で以て競争することが出来、企業者が大なる所得を受取るとしても、國民利益は工業に於けるよりも小である。』

かくてマノイレスコによれば個人的利益と國民利益との間には必ずしも平行關係は存在せず、外國との自由交通の下では企業家利潤の存し得ざる部門であつても、必ずしも低い國民所得を齎らす部門であるとは斷言出来ない。しかるに資本主義經濟の下では企業家利潤なければ企業そのものが存立し得ず、従つて企業家利潤以外の他の高き國民所得項目も失はれる。それ故にかくの如き場合には、適當な保護政策によつて企業家利潤を確保せしめることは、さもなくば失はるべき他の高き國民所得をも確保する所以である。⁶⁾

マノイレスコの保護貿易論はより大なる『國民利益』の確保を目的とする。けれどもより大なる『國民利益』を確保するためにある部門を保護するとしても、その生産物の國內消費者は自由貿易の下に於けるよりも高い價

6) derselbe: a. a. O. S. 61.

8) 油本豊吉氏：外國貿易論 現代經濟學全集二十一卷36-52頁 スミスを生産者利益説の代辯者とせられる油本教授の説と消費者利益本位説の代辯者に數へられる竹内博士の説との對立のうちにも吾々はスミスの古典派としての非純粹マールカンテイリスト的殘滓を認めることが出来る。

7) 竹内謙二氏：貿易統制論 53頁。

格で購買することになる。それ故にマノイレスコの『國民利益』の内容は消費者利益ではなくして寧ろ生産者利益であることが知られる。従つてこの點に於てまたマノイレスコは、明示的或ひは默示的に國民利益を消費者利益と同一視した古典派の見解と對立する。古典派の政策論的判斷は、特定の商品が國內生産の直接的方法によるよりも、外國貿易の間接的方法による方がより安價に即ちより有利な交換比率で獲得されると言ふ命題に立脚してゐる。この意味に於て古典派の政策論的見地は消費者利益説であつたと云へよう。マノイレスコはまた消費者利益引いては安價な輸入の利益を強調する古典派の政策論的見地を次の如く反駁する。個人は與へられたる時點に於ては一定の職業から一定の所得を受け取り、それによつて極大の欲望充足を達成せねばならぬ。しかるに個人は普通その必要とする多くの消費財を自らの經濟活動によつて直接に獲得するものではない。『經濟主體はこれ等の商品を購買するのを常とし、彼は一定の所得から貨幣で支拂ふ。かくて彼は一定の所得を以て極大の充足を達成するために安價に購買すると言ふ問題に直面する』⁹⁾即ち個人にあつては生産活動と消費活動との間に直接の關聯は存在せず、彼は特定の生産活動から一定の所得を受取り、この一定の所得を以てする購買によつてその大部分の欲望充足を行ふ。それ故に欲望充足に際して個人の考慮に上る問題は出來る限り安價に購買することである。これに對して國民を一體とした經濟活動に於ては事情が異なる。一國に於ては自國の勞働によつてその國の必要の大部分を充足することが出來るのみならず、生産構造を變化することによつて。從來外國から輸入してゐた商品をも直接に國內生産によつて獲得することが出來る。また他面に於て一國全體について見る場合には、輸入品に對する支拂も個人の場合の如く一定の所得源泉から行はれるのではない。一國は輸入品に對しては輸出品によつて支拂ふのであるが、『この輸出商品はその量及び價值即ち他の商品（輸入品）に對する購買力に於て著しく

9) Manoilescu: a. a. O. S. 155, 160.

10) 11) derselbe: a. a. O. S. 156.

12) derselbe: a. a. O. S. 158.

相違するものである。¹¹⁾『それ故に』輸入商品が廉價であると言ふことのみを以てしては、吾々は未だ輸入が利益である¹²⁾と判断することは出来ない。輸入の利益は如何に購買するかと言ふことのみならず、必要な購買力を如何に調達するかと言ふことにも依存する。¹¹⁾而してマノイレスコによれば一般に原料品よりも製造品の方が、また農産物よりも工業生産物の方が購買力調達の能力は大であるから、たとへ輸出商品の生産に必要な資本及び労働支出の量が一定されておよとも、一國は生産構造を適當に變化することによつてより大なる購買力を調達することが出来る。かくて一個人にあつては與へられたる時に於ける彼の所得引いては購買力は一定して居るから、購買問題は専ら純然たる商業活動の範圍に限定されるのであるが、『一國の購買は何を購買するかと言ふことのみならず、購買のために何を生産するかと言ふことに依存する。……一國の場合に於ては購買は決して單なる商業問題ではなくして、それは同時に生産問題である。』¹²⁾それ故に貿易が一國にとつて有利に行はれてゐるか否かの判断は輸入が安價であるかどうかと言ふことのみならず、輸入に對する支拂が何によつてなされてゐるかと言ふことも顧慮して行はれねばならぬ。『特定の生産の國民的總利益は次の二つの因子の表現及び結果である。即ち（労働生産性と言ふ極めて根本的な概念に結びついてゐるところの）生産の國民利益及び（輸出によつて齎される價值増大の思想に結びついてゐるところの）外國貿易の國民利益である。生産問題は與へられた労働失費を以て極大の國內僞値を齎すことにある。また外國貿易問題は輸出によつて極大の價值増加を達成することにある。……かくて總括的な經濟問題は極小の國內労働を以て極大の國際購買力を調達することにある。』¹³⁾かくの如くマノイレスコに於ては外國貿易の國民利益の問題は輸出によつて齎される價值増大にあるとせられるから、彼の政策的立場は輸出利益説にあると見ることが出来る。¹⁴⁾更にまた彼に於ては貿易利益の問題は生産問題に聯關して居り、しかも生産問題は與へら

13) derselbe: a. a. O. S. 246.

14) F. List: Das nationale System der politischen Ökonomie (谷口博士正木學士共譯) 24頁以下。

15) Manoilescu: a. a. O. S. 5, 13.

16) List: a. a. O. S. 202 ff. 白杉學士: 國民經濟學研究 29頁以下 竹内講二博士: 前掲書 80, 81頁參照。

14) 油本教授: 前掲書 34頁以下參照。

れた勞働失費を以て極大の國內價值を齎らすこと、従つて彼の意味に於けるより高き勞働生産性引いてはより高き國民所得の實現にあるとせられるから、その立場は、また生産者利益説であり所得説であると言ふことが出来るよう。

さて自らの理論を反原子論的國民優位の理論と稱するマノイレスコの根本思想は、『學派の萬民的性格』を批判し『國民體』の尊嚴を強調するリストのそれと極めて似通つてゐる。實際彼はリストを『西歐に對する吾々々經濟政策的防衛のために戦つた最初の精神的闘士であり、吾々自身の經濟的獨立の道の開拓者』として賞讃してゐる。¹⁵⁾ またその貿易政策論上の構想に於ても安價な輸入の利益を最高の勞働生産性の利益に代置せんとするマノイレスコは、交換價值即ち富そのものに關する理論を國民生産力即ち富を創る力の理論に代置せんとしたリストに極めて類似してゐる。更にまた一般に工業部門の勞働生産性は農業部門のそれよりも高いと言ふ證據から工業保護を主張するマノイレスコの政策論的歸結は『保護制度は一國民の工業的教育の目的に於てのみ獨りその目的よりは認められる』ものであり、『保護關稅によつて國內農業を發展せしめんとするのは一の愚な企である』¹⁷⁾と主張するリストのそれと軌を一にし、『一方的工業國の危険』に對する心配から農業保護論を主張したオルデンベルグ、ワグナー、ポール等と對立することも注目し價する。¹⁸⁾

かくの如くマノイレスコの理論の性格は多分にリスト的であるが、しかし從來の保護貿易論に於ては經濟外的議論の色彩が強くなりリストを始めオルデンベルグやワグナーにあつても、或ひは『工業的獨立』とそれによつて齎される『國內の繁榮……文明の増進、國內諸制度の完備、對外的勢力の強化』が指摘せられ、或ひはまた『國民的獨立』の安全感が強調せられてゐる。¹⁹⁾ これに反してマノイレスコの理論は、『保護主義のかゝる傳統を打破し

17) List: a. a. O. S. 62.

18) 拙稿: 生産手段特に機械輸出の國民經濟的可否について. 工業第III號, 39頁以下.

19) cf. List: a. a. O. S. 274. K. Oldenberg: Deutschland als Industrie-Staat S. 33. A. Wagner: Agrar- und Industrie Staat S. 33, 36.

純粹な經濟的議論に立脚して保護主義の争ふべからざる價值を論證する』ことをその課題としてゐる。従つて彼の理論は古典派が自由貿易の直接的即座的な經濟的利益を説いたのに對し、保護主義の直接的即座的な經濟的利益を追求しようとする。この點にまた吾々はマノイレスコとリストとの重大な相違を認める。リストは『保護關稅によつて價値の犠牲が拂はれるがこの犠牲は生産力の獲得によつて償はれる。この生産力の獲得たるや國民の將來に無限大量の物質財を保證する』²¹⁾と考へる。即ち彼に於ては保護主義はその當初に於ては經濟的犠牲を意味するが、この犠牲は將來に於ける生産力の増大によつて償はれるものとせられてゐる。これに反してマノイレスコに於ては『保護された工業はその最初の日から國民所得を増加する』²²⁾であり、その當初に於てすら決して犠牲を意味しないのである。

最後にリストに於ては保護主義の妥當性は、特定の自然的條件(溫帶地方)と特定の經濟發展段階(農業が完全に發達し盡した段階)に限定せられて居り、『最後に富や勢力の最高段階に到達すれば漸次に自由貿易の原理および内外市場に於ける自由競争の原理に復歸する』²³⁾べきであるとされてゐる。これに反してマノイレスコは工業と農業との間の勞働生産性の差違は永続的であると考へることによつて永続的保護主義を主張するのである。²⁴⁾彼によれば『工業は婦人の如きものであつて常に若からんと欲する。』²⁵⁾即ちリストが保護政策の妥當性を限定し、經濟發展の最後の段階に於ては自由貿易に復歸すべきことを主張する場合、彼は究局に於ては自由貿易論者であり従つて古典派の徹底的批判者ではない。彼に於てもなほ一般的妥當性は自由貿易主義にありその育成論は特定の經濟發展段階に限定された『例外的教義』とならざるを得ない。これに反してマノイレスコは寧ろ保護主義こそ一般妥當的であり、自由貿易主義は例外的にのみ妥當するものであることを論證せんとしてゐる。²⁷⁾

20) Manoilescu: a. a. O. S. 144-145.

21) List: a. a. O. S. 314.

22) List: a. a. O. S. 60及v. 186參照.

23) Manoilescu: a. a. O. S. 276.

24) Derselbe: a. a. O. 209 ff 參照.

25) Manoilescu: a. a. O. S. 4.

26) Derselbe: a. a. O. S. 166.

27) Derselbe: a. a. O. S. 30.